

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

(平成 27 年 2 月分【護岸建設工事中・埋立中の共通調査②】)

【底質（一般項目）、陸域生態系（鳥類）】

国土交通省 近畿地方整備局

大阪市 港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター

目 次

I 事後調査の概要

1. 調査概要	I - 1
2. 工事の実施状況	I - 4
3. 調査結果の概要	I - 5

II 事後調査結果

1. 底質	II - 1
2. 陸域生態系（鳥類）	II - 2

I 事後調査の概要

1. 調査概要

「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく平成 27 年 2 月（陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表-1 に、調査地点の位置は図-1 に示すとおりである。

表-1 事後調査の概要（平成 27 年 2 月）

埋立地周辺における調査

(1) 底質（一般項目）表-1(1)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
粒度組成 含水率 強熱減量 化学的酸素要求量(COD) 硫化物 全窒素(T-N) 全磷(T-P) 酸化還元電位	4点(表層土) 【2, 3, 4, 5】	2月16日	2回／年 (8月、2月)

(2) 陸域生態系（鳥類）表-1(2)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4点 【a、b、c、d】	2月2日	4回／年(2年おきに実施) (5月、8月、11月、2月)

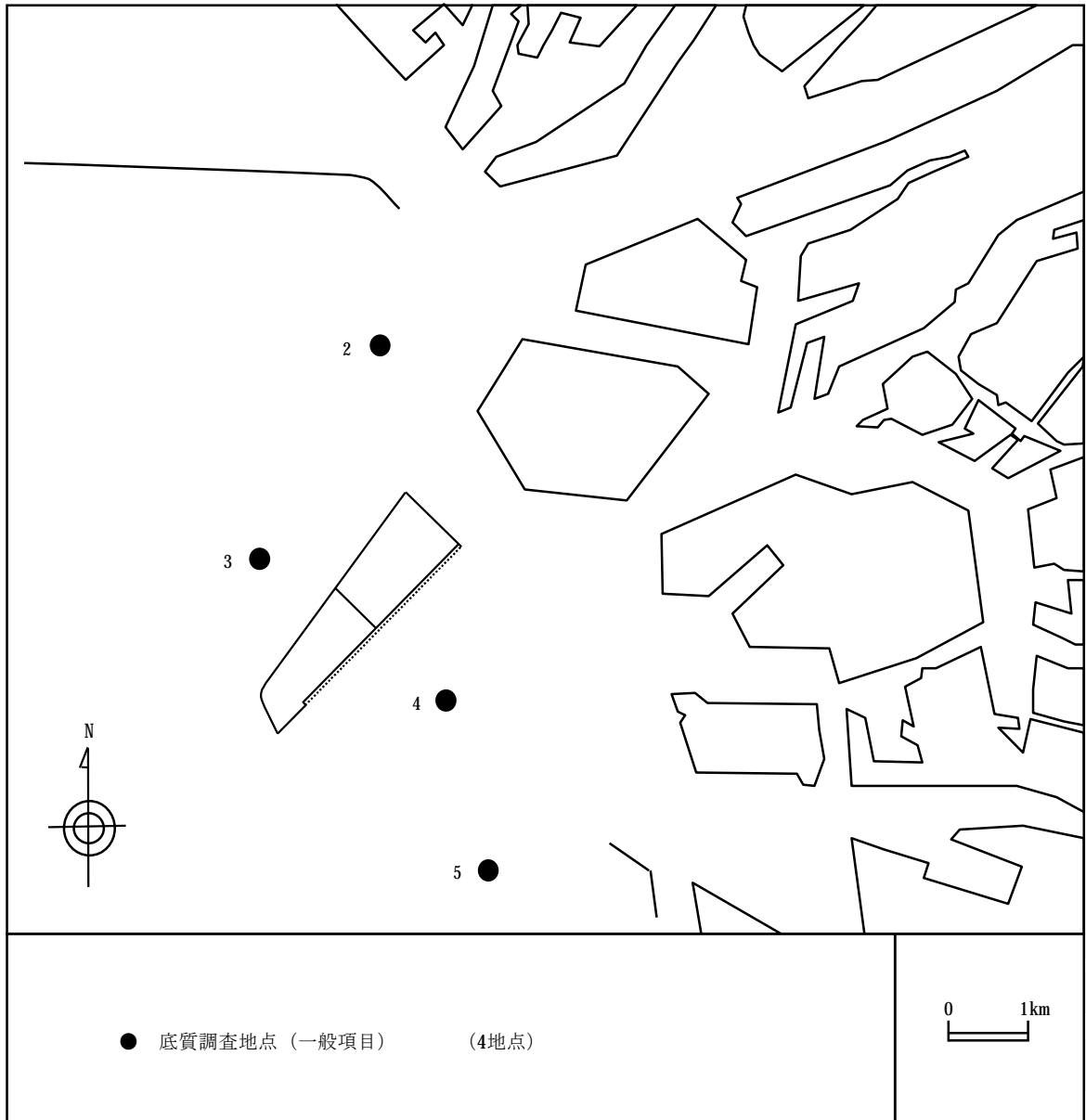
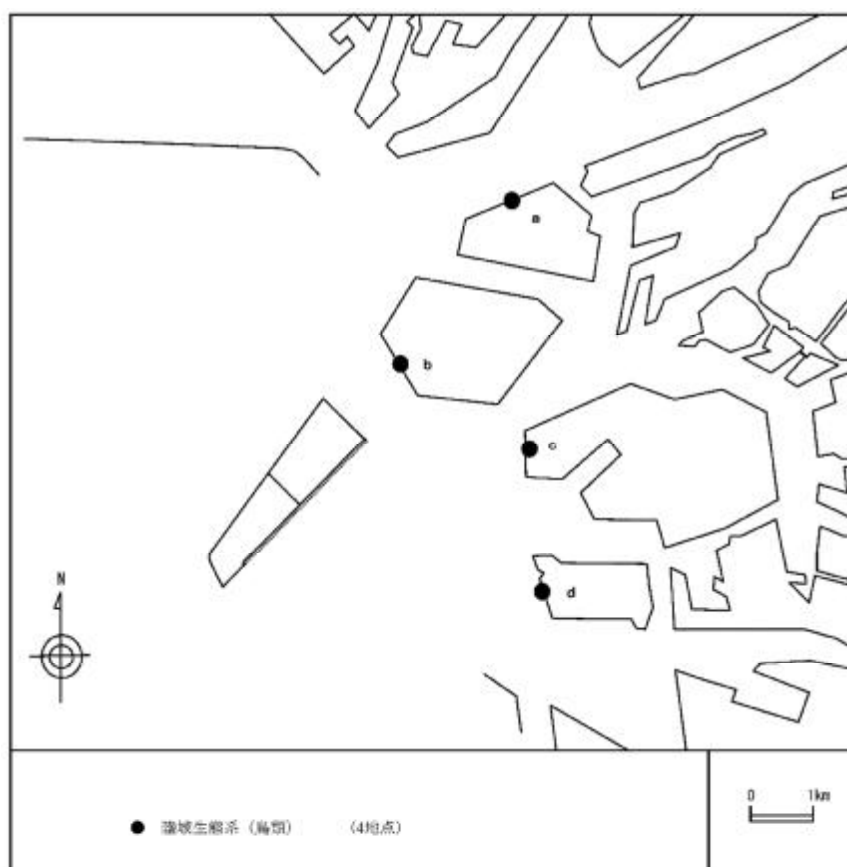


図-1(1) 底質(一般項目)の調査地点 (平成 27 年 2 月)

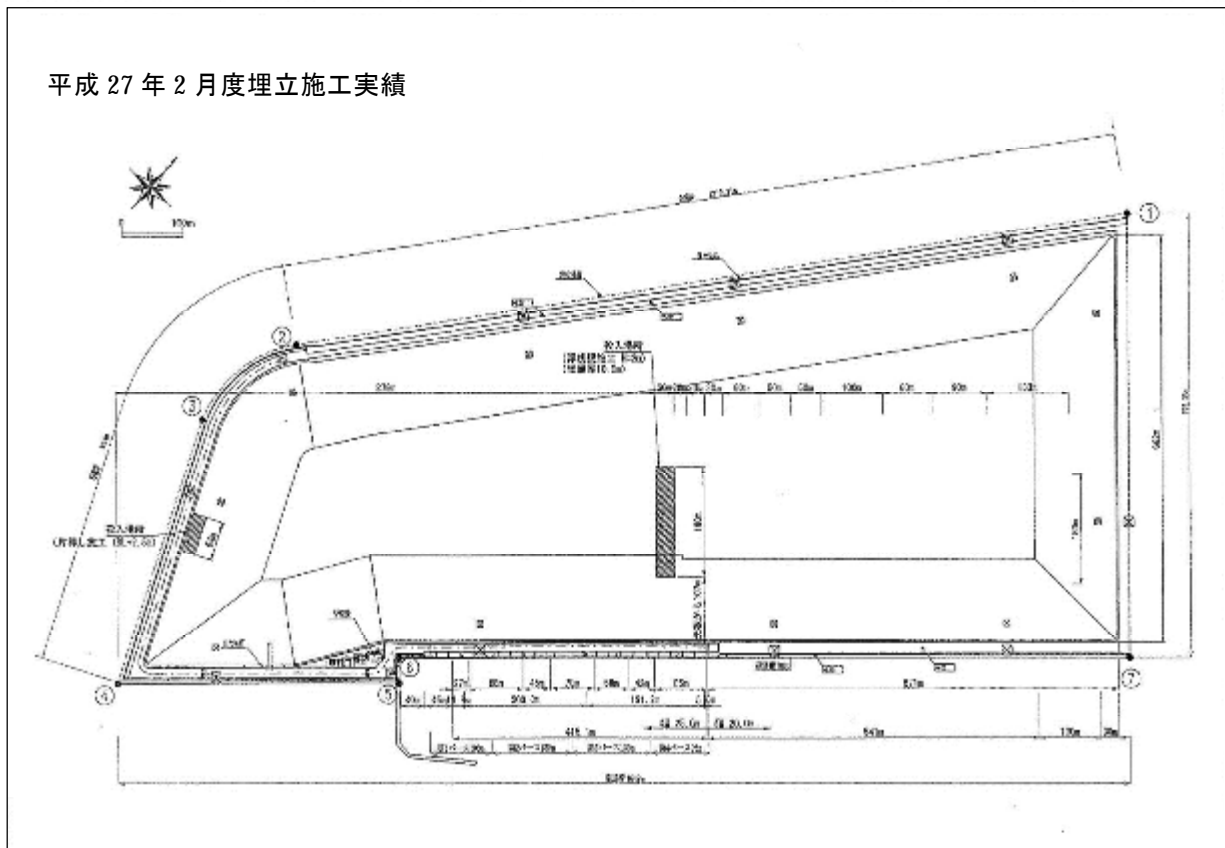


図一(2) 陸域生態系(鳥類)の調査地点(平成 27 年 2 月)

2. 工事の実施状況

平成 27 年 2 月の工事の実施状況は、図-2 に示すとおりである。

大阪沖処分場平面図



埋立量(m ³)	進捗率(%)
3,103,395	22.2

埋立容量(計画量) : 13,975,000 m³

図-2 工事の実施状況 (平成 27 年 2 月)

3. 調査結果の概要

埋立地周辺における調査

(1) 底質 [底質様式第1号]

1) 一般項目

強熱減量は**9.1～9.8%**、化学的酸素要求量(COD)は**37～40mg/g** 乾泥、硫化物は**0.2～0.7mg/g** 乾泥、全窒素(T-N)は**2.5～2.9mg/g** 乾泥、全磷(T-P)は**0.59～0.67mg/g** 乾泥の範囲にあった。

2) 処分場周辺

事後調査報告書（平成**27**年**2**月分【埋立中調査②】）で報告する。

(2) 陸域生態系（鳥類） [陸域生態系（鳥類）様式第1～3号（埋立地関連）]

鳥類の出現種類数は、**4**地点合計で**9**目**22**科**50**種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点**a**が最も多く**1,908**羽であり、次いで調査地点**b**の**936**羽、調査地点**d**の**382**羽、調査地点**c**の**94**羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点**b**が最も多く**31**種であり、次いで調査地点**a**の**29**種、調査地点**c**、**d**の**18**種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点**a**における主要な出現種は、ホシハジロ（カモ目カモ科）、セグロカモメ（チドリ目カモメ科）、ムクドリ（スズメ目ムクドリ科）、ユリカモメ（チドリ目カモメ科）、キンクロハジロ（カモ目カモ科）であった。

事業実施前（平成**10**年**2**月：調査地点の位置は、平成**26**年度調査の調査地点に同じ）に実施した鳥類調査の結果は、**4**地点合計で**8**目**17**科**37**種であり、事業実施前と比べて種類数が多かった。

II 事後調查結果

底質様式第1号

底質調査結果（一般項目）[平成27年2月分]

調査日：平成27年2月16日

項目		調査点				最小値	～	最大値	平均値
		2	3	4	5				
採泥時刻		12:07	11:40	10:48	10:17	—		—	
粒度 組成 〔%〕	粗礫 (19mm以上)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	～	0.0	0.0
	中礫 (4.75～19mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	～	0.0	0.0
	細礫 (2.00～4.75mm)	0.5	1.0	0.7	1.0	0.5	～	1.0	0.8
	粗砂 (0.850～2.00mm)	0.8	0.9	0.8	1.1	0.8	～	1.1	0.9
	中砂 (0.250～0.850mm)	0.9	2.2	1.3	1.3	0.9	～	2.2	1.4
	細砂 (0.075～0.250mm)	1.8	2.2	4.0	3.9	1.8	～	4.0	3.0
	シルト (0.005～0.075mm)	49.9	43.9	44.0	48.6	43.9	～	49.9	46.6
	粘土 (0.005mm以下)	46.1	49.8	49.2	44.1	44.1	～	49.8	47.3
含水率〔%〕		67.8	70.3	68.9	69.9	67.8	～	70.3	69.2
強熱減量〔%〕		9.2	9.2	9.8	9.1	9.1	～	9.8	9.3
化学的酸素要求量（COD） 〔mg/g乾泥〕		40	39	37	38	37	～	40	39
硫化物〔mg/g乾泥〕		0.7	0.2	0.3	0.2	0.2	～	0.7	0.4
全窒素（T-N）〔mg/g乾泥〕		2.5	2.9	2.6	2.7	2.5	～	2.9	2.7
全磷（T-P）〔mg/g乾泥〕		0.67	0.64	0.63	0.59	0.59	～	0.67	0.63
酸化還元電位〔mV〕		-283	-288	-278	-243	-288	～	-243	-273

特記事項

陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）[平成27年2月分]

調査日：平成27年2月2日

目	科	種	区分	地点別出現個体数				計		
				a	b	c	d			
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥		2	14		16		
		ハジロカイツブリ	冬鳥	4	12			16		
ペリカン	ウ	カムリカイツブリ	冬鳥	2	3		15	20		
		カワウ	留鳥	2	77	2	15	96		
コウノトリ	サギ	アオサギ	留鳥	1	1	2		4		
カモ	カモ	ツクシガモ	冬鳥		52			52		
		マガモ	冬鳥		2		142	144		
		カルガモ	留鳥	2	26			28		
		コガモ	冬鳥	4	134			138		
		オカヨシガモ	冬鳥		93			93		
		ヒドリガモ	冬鳥				42	42		
		オナガガモ	冬鳥		58		14	72		
		ハシビロガモ	冬鳥	7	59			66		
		ホシハジロ	冬鳥	1,564	77			1,641		
		キンクロハジロ	冬鳥	15	43			58		
		スズガモ	冬鳥	1	3			4		
		ホオジロガモ	冬鳥		3			3		
		ウミアイサ	冬鳥	3				3		
		タカ	タカ	ミサゴ	留鳥				1	1
				トビ	留鳥		1			1
ノスリ	冬鳥				1			1		
ハイイロチュウヒ	冬鳥				1			1		
ハヤブサ	留鳥			2				2		
ツル	クイナ	チョウゲンボウ	冬鳥			1		1		
		バン	留鳥	1				1		
チドリ	シギ	オオバン	留鳥	7	8	1		16		
		ハマシギ	冬鳥				1	1		
カモメ	カモメ	イソシギ	留鳥	1	1		1	3		
		ユリカモメ	冬鳥（一部留鳥）	22			4	26		
		セグロカモメ	冬鳥	178	6	12	122	318		
		ウミネコ	留鳥	4				4		
		キジバト	留鳥	1		4		5		
		ヒバリ	留鳥		3			3		
		セキレイ	留鳥	1	3	1	3	8		
		タヒバリ	冬鳥	2				2		
		ヒヨドリ	留鳥	4		8		12		
		ツグミ	冬鳥		3	3	1	7		
ハト	ハト	ジョウビタキ	冬鳥				1	1		
		イソヒヨドリ	留鳥				1	1		
		シロハラ	冬鳥	1		1	4	6		
		ツグミ	冬鳥	3	34	3	2	42		
		ウグイス	留鳥			1		1		
		シジュウカラ	留鳥				6	6		
		メジロ	留鳥	4		8	7	19		
		ホオジロ	留鳥		12			12		
		アオジ	冬鳥			1		1		
		オオジュリン	冬鳥			5		5		
		アトリ	カワラヒワ	留鳥（一部冬鳥）	4	4			8	
		ハタオドリ	スズメ	留鳥	7	88			95	
		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	58	31	25		114	
		カラス	ハシブトガラス	留鳥	3	95	2	1	101	
		合計（9目22科50種）			目数	9	8	8	6	9
科数	17				16	15	11	22		
種類数	29				31	18	18	50		
個体数	1,908				936	94	382	3,320		

注) 1. 分類及び種の配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成26年度版生物リスト」（国土交通省、2015）に従った。
 2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2001」（（財）日本野鳥の会大阪支部、2002）に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）[平成27年2月分]

調査日：平成27年2月2日

区分		地点別出現個体数				
		a	b	c	d	計
出現 状況	目	9	8	8	6	9
	科	17	16	15	11	22
	種	29	31	18	18	50
出現個体数		1,908	936	94	382	3,320
主な出現種 (個体数、 組成比率)	ホシハジロ (1,564羽、82.0%)	マガモ (134羽、14.3%)	ムクドリ (25羽、26.6%)	マガモ (142羽、37.2%)	ホシハジロ (1,641羽、49.4%)	
	セグロカモメ (178羽、9.3%)	ハシブトガラス (95羽、10.1%)	カイツブリ (14羽、14.9%)	セグロカモメ (122羽、31.9%)	セグロカモメ (318羽、9.6%)	
	ムクドリ (58羽、3.0%)	オカヨシガモ (93羽、9.9%)	セグロカモメ (12羽、12.8%)	ヒドリガモ (42羽、11.0%)	マガモ (144羽、4.3%)	
	ユリカモメ (22羽、1.2%)	スズメ (88羽、9.4%)	ヒヨドリ (8羽、8.5%)	カンムリカイツブリ (15羽、3.9%)	マガモ (138羽、4.2%)	
	キンクロハジロ (15羽、0.8%)	カワウ (77羽、8.2%)	メジロ (8羽、8.5%)	カワウ (15羽、3.9%)	ムクドリ (114羽、3.4%)	
		ホシハジロ (77羽、8.2%)				

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）[平成27年2月分]

調査日：平成27年2月2日

調査地点 a				調査地点 b			
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	カモ	7	83.6	1	カモ	11	58.8
2	カモメ	3	10.7	2	カラス	1	10.1
3	ムクドリ	1	3.0	3	ハタオリドリ	1	9.4
4	クイナ	2	0.4	4	ウ	1	8.2
5	ハタオリドリ	1	0.4	5	ツグミ	2	4.0
6	カイツブリ	2	0.3	6	ムクドリ	1	3.3
7	ヒヨドリ	1	0.2	7	カイツブリ	3	1.8
7	ツグミ	2	0.2	8	ホオジロ	1	1.3
7	メジロ	1	0.2	9	クイナ	1	0.9
7	アトリ	1	0.2	10	カモメ	1	0.6
11	セキレイ	2	0.2	11	アトリ	1	0.4
11	カラス	1	0.2	12	タカ	3	0.3
13	ウ	1	0.1	12	ヒバリ	1	0.3
13	ハヤブサ	1	0.1	12	セキレイ	1	0.3
15	サギ	1	0.1	15	サギ	1	0.1
15	シギ	1	0.1	15	シギ	1	0.1
15	ハト	1	0.1				

調査地点 c				調査地点 d			
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	ムクドリ	1	26.6	1	カモ	3	51.8
2	カイツブリ	1	14.9	2	カモメ	2	33.0
3	カモメ	1	12.8	3	カイツブリ	1	3.9
4	ヒヨドリ	1	8.5	3	ウ	1	3.9
4	メジロ	1	8.5	5	ツグミ	4	2.1
6	ツグミ	3	7.4	6	メジロ	1	1.8
7	ホオジロ	2	6.4	7	シジュウカラ	1	1.6
8	ハト	1	4.3	8	セキレイ	1	0.8
9	ウ	1	2.1	9	シギ	2	0.5
9	サギ	1	2.1	10	タカ	1	0.3
9	カラス	1	2.1	10	カラス	1	0.3
12	ハヤブサ	1	1.1				
12	クイナ	1	1.1				
12	セキレイ	1	1.1				
12	ウグイス	1	1.1				

注) 優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は100.0%にならないことがある。